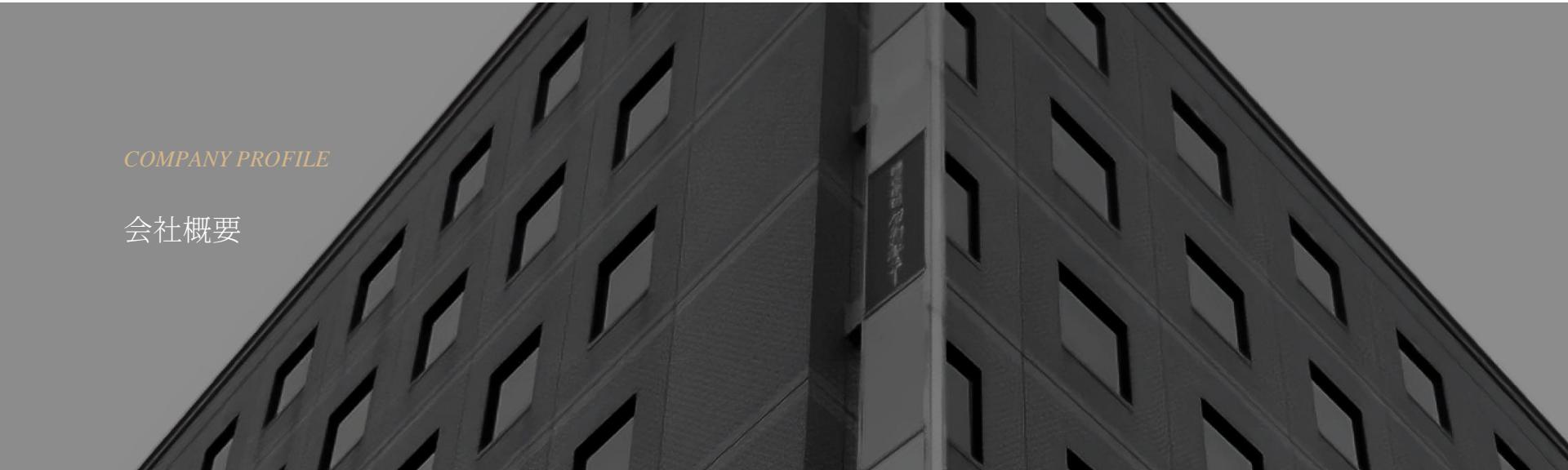


TAKAQ

2026年2月期
第3四半期決算説明資料
2026年1月9日



COMPANY PROFILE

会社概要

商号	株式会社タカキュ	資本金	1.72億円
本社所在地	〒173-0004 東京都板橋区板橋3丁目9番7号	期末従業員数	274名（就業人員）
TEL	03-5248-4100（代）	市場名	東証スタンダード
事業所	名古屋物流センター（愛知県名古屋市港区）	適格請求書 発行事業者登録番 号	T5011401003916
事業内容	紳士服・婦人服及び関連洋品雑貨の企画・販売	決算	2月末
設立	1950年6月30日	代表者	代表取締役社長執行役員 伊藤 健治（いとう けんじ）



PHILOSOPHY

企業理念

MISSION

私たちちは、服を通してお客様を幸せにし、自信と喜びを提供することを使命とします。
常に高品質でトレンドを反映した商品を提供し、お客様の人生を幸せにすることを目指します。

VISION

私たちちは、服を通してお客様と深い信頼関係を築き、
服を通して持続可能なファッショントを推進し社会と環境に貢献する会社になります。

お客様第一主義

私たちちは、お客様の声に耳を傾けてきたいを超える商品・サービスを提供します。

VALUE

イノベーション

私たちちは、新しいアイデアと技術を取り入れ業界をリードします。

持続可能

私たちちは、環境に優しい素材、製造方法を取り入れ持続可能な未来を目指します。

エンパワーメント

私たちちは、社員一人ひとりが力を発揮できる環境で成長をサポートします。

社会的責任

私たちちは、公正で透明なビジネスを実践し、信頼される企業であり続けます。

MESSAGE

代表挨拶

MY MISSION IS TO CREATE A NEW TAKA-Q

私の考えるミッションは
“新しいタカキューアを作ること”

平素より格別のご支援とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
このたび、2024年9月17日付で代表取締役 社長執行役員に就任
しました伊藤健治でございます。

社長就任にあたり、私の考えるミッションは“新しいタカ
キューアをつくる”ことです。

当社はこれまで70年以上の歴史を歩んでまいりました。その中
で醸成された風土や既存の仕組みには、もちろん良い部分もあ
りましたが、改善すべき点、進化させるべき慣習も多々あるもの
と感じています。

“新しいタカキューアをつくる”にあたり、先ずは物事をゼロベー
スで捉え、再構築を実施していくことによって、従業員、株主、
取引先などステークホルダーの皆様のご期待にお応えできるよ
う努めてまいります。

そして、これらを実現するにあたり、経営理念・行動指針を再
定義し、実践してまいります。

代表取締役

社長執行役員 伊藤 健治

Kenji Ito



目次

・会社概要・企業理念・代表挨拶	P.2
I. 2026年2月期第3四半期決算概要	P.6
(1)損益計算書(要約)	P.7
(2)貸借対照表(要約)	P.11
(3)キャッシュフロー計算書(要約)	P.12
(4)2026年2月期通期業績予想	P.13

I. 2026年2月期 第3四半期決算概要

1. 損益計算書(要約)

- 売上高は、店舗撤退、会員販促の変更に加え、厳しい残暑への対応商品の不足等もあり、前年同期比減収
- 利益面では、値引コントロール、コスト管理の徹底、および店舗数減少により販管費を削減(△4.7pt)、営業利益は黒字を確保するも、売上高の減収に伴い減益
- なお、前期の当期純利益には、債務免除益1,499百万円(特別利益に計上)を含む

単位:百万円	25/2期 第3四半期	26/2期 第3四半期	前年同期差額	増減率
売上高	7,106	6,422	△684	△9.6%
成長率	95.1	90.4	△4.7pt	—
EC化率	9.9	9.2	△0.7pt	—
売上総利益	4,409	4,048	△360	△8.2%
売上総利益率	62.0	63.0	+1.0pt	—
販管費	4,216	4,016	△199	△4.7%
営業利益	193	32	△160	△83.0%
営業利益率	2.7	0.5	△2.2pt	—
経常利益	293	128	△164	△56.2%
当期純利益	1,741	373	△1,368	△78.6%

1-1. 既存店売上(EC含む・前年同期比)

- ・ 客単価は夏のバーゲン期は販促を強化したことで前年を下回るも、値引コントロール等により、第3四半期は前年改善、累計では前年同期比105.1%
- ・ 客数は会員販促の変更による会員客数の減少が想定より大きく、アプリ会員の増加等により回復しつつあるも、累計では前年同期比90.0%
- ・ 上記により、既存店売上高は前年同期比94.6%



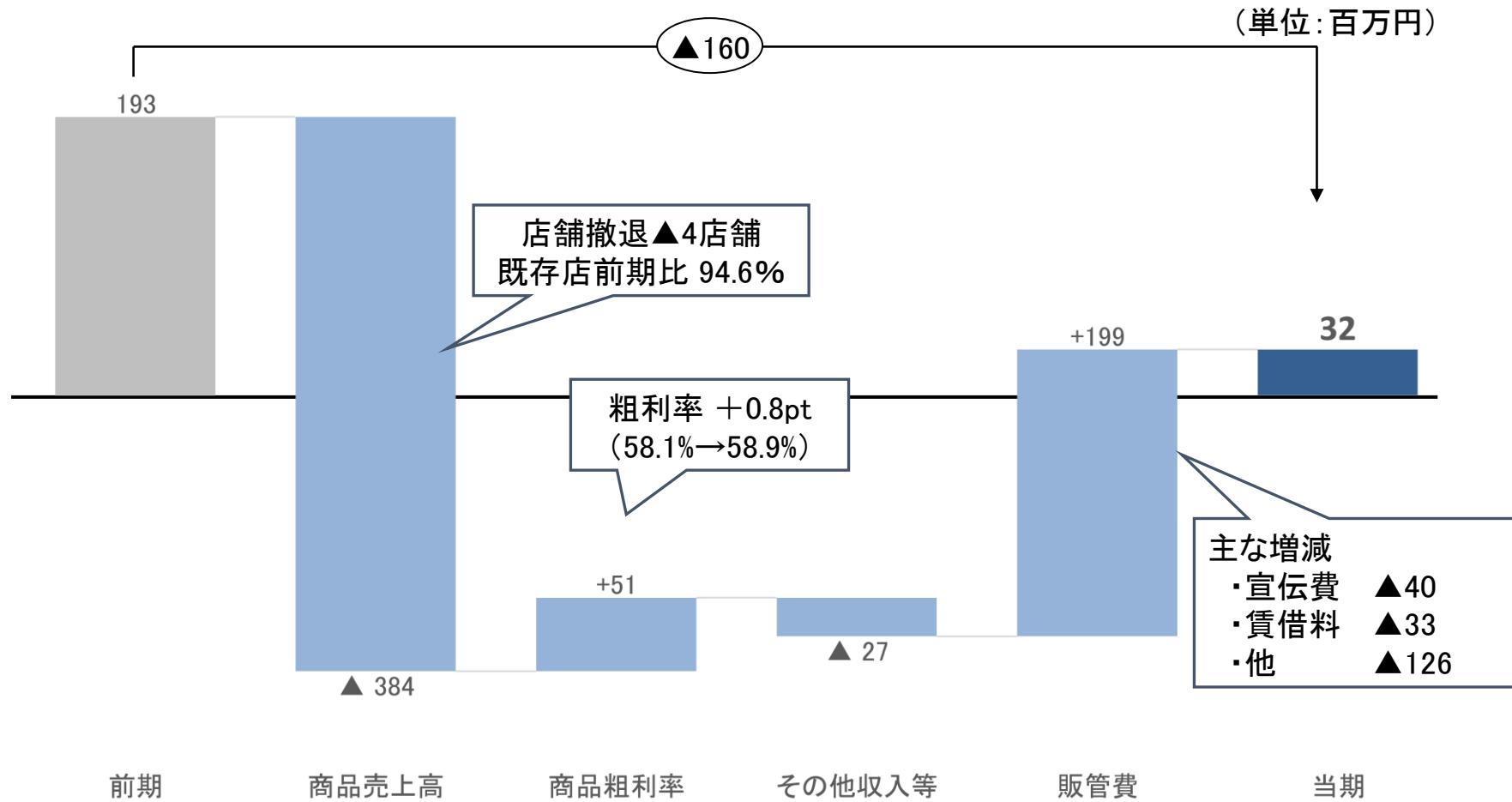
1-2. 販売費及び一般管理費(要約)

- 販管費 前年同期差△199百万円、会員制度変更、店舗撤退の影響等
 - 広告宣伝費:△28百万円:会員制度変更に伴うDMチラシ費の減少等
 - 人件費: +25百万円:賞与支給に伴うもの等
 - 賃借料: △33百万円:店舗撤退等による賃料減少
 - 減価償却費: △29百万円:POS償却終了に伴うもの等
 - その他経費: △121百万円:会員制度変更に伴うポイント引当繰入の減少等

単位:百万円	25/2期 第3四半期	26/2期 第3四半期	前年同期差額	増減率
販管費	4,216	4,016	△199	△4.7%
広告宣伝費	227	186	△40	△17.8%
人件費	1,419	1,444	+25	+1.8%
賃借料	1,092	1,058	△33	△3.1%
減価償却費	113	83	△29	△26.1%
その他経費	1,363	1,242	△121	△8.9%

1-3. 営業損益増減(前年同期比)

- ・ 営業損益は、32百万円の黒字を確保するも、前年同期比▲161百万円の減益



2. 貸借対照表(要約)

- 流動資産の増加: +262百万円
 - 現金及び預金(+146百万円)、商品(+243百万円)
- 固定資産の増加:+835百万円
 - 投資有価証券(+869百万円)
- 負債の減少:△198百万円
 - 繰延税金負債(△187百万円)

単位:百万円	25/2期 第3四半期末	26/2期 第3四半期末	増減	【参考】 25/2期末
総資産	5,998	7,097	+1,098	5,691
流動資産	3,775	4,037	+262	3,507
固定資産	2,223	3,059	+835	2,184
負債	5,160	4,962	△198	4,615
有利子負債	1,991	1,991	—	1,991
純資産	838	2,134	+1,296	1,075

3. キャッシュフロー計算書(要約)

- ・ 営業キャッシュフローは、前年同期比280百万円改善
- ・ 財務キャッシュフローの前期に新株発行による収入495百万円あり

(単位:百万円)

単位:百万円	25/2期 第3四半期	26/2期 第3四半期
営業活動によるキャッシュフロー	△404	△123
投資活動によるキャッシュフロー	△69	△111
財務活動によるキャッシュフロー	+431	+91
現金及び現金同等物の増減額	△42	△144
現金及び現金同等物の期首残高	1,130	1,378
現金及び現金同等物の当期末残高	1,087	1,234

4.2026年2月期通期業績予想

(前回公表から変更あり)

- 会員向け販促見直しによる会員客数の減少が想定以上であったこと等により、売上高が前回予想を下回る見込みであり、販促値引抑制や販管費削減に努めたものの、営業利益、および経常利益も前回予想を下回る見込み。当期純利益は投資有価証券売却益(特別利益)11億2千万円を計上することにより、前回予想を上回る見込み

単位:百万円	25/2期 実績	26/2期予想(2026年1月9日公表)			
		24/3公表 事業再生計画	予想	前期増減	増減率
売上高	9,650	9,856	8,800	△850	△8.8%
売上総利益	5,883	—	5,420	△463	△7.8%
販管費	5,679	—	5,400	△279	△4.9%
営業利益	203	19	20	△183	△90.2%
経常利益	355	158	160	△195	△55.0%
当期純利益	1,968	87	1,150	△818	△41.6%

本資料に掲載されております事項は、決算発表時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。

これらの将来展望に関する表明には、様々なリスクや不確実性が内在しており、前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。

世界経済・競合状況・為替の変動等に係るリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

本資料と併せて、決算短信などの開示書類をご参考にしてくださいま
すようお願い申し上げます。

Memo

TAKAQ